

用語集

<p>ポピュレーションアプローチ</p>	<p>保健事業の対象者を一部に限定せず集団全体へ働きかけを行い、全体としてリスクを下げるアプローチを指しています。一方で、疾患リスクの高い対象者に絞り込んで対処していく方法を、ハイリスクアプローチといいます。</p>
<p>PDCAサイクル</p>	<p>Plan（計画）⇒Do（実施）⇒Check（評価）⇒Action（改善）を繰り返し、効率的に事業を改善するサイクルのことです。</p>
<p>国保データ分析システム（KKDA）</p>	<p>香川県国民健康保険団体連合会が運用している国保データ分析システムを指します。 特定健診結果やレセプト情報から、生活習慣病重症化予防のために受診勧奨の必要な者や保健指導対象者の抽出ができます。 これら対象者データに基づき、各被保険者ごとへ保健事業を展開しています。</p>
<p>医療費分析システム（SBS）</p>	<p>香川県国民健康保険団体連合会が開発した医療費分析システムを指します。 レセプト情報に基づく重複受診者、頻回受診者の抽出処理、特定健診未受診者データの抽出ができます。</p>
<p>特定健康診査 （特定健診）</p>	<p>厚生労働省により、平成20年4月から健康保険組合や国民健康保険等の保険者に実施が義務づけられました。糖尿病や高脂血症などの生活習慣病の発症や重症化を予防することを目的として、メタボリックシンドロームに着目し、この該当者及び予備群を減少させるための特定保健指導を必要とする者を抽出するために行う健康診査です。</p>

<p>特定保健指導</p>	<p>特定健康診査の結果、厚生労働省が定める基準値に該当する者を対象に行われます。生活習慣の改善による生活習慣病の予防効果が多く期待できる人に対して、医師、管理栄養士、保健師が生活習慣を見直すサポートを実施するものです。</p> <p>【動機づけ支援】 メタボリックシンドロームのリスクが出てきた人に、「初回の面接による支援」、「6ヶ月後の評価」を行います。原則1回の個別面接（20分以上）等を行い、生活習慣改善のための目標を立て、実践を促します。</p> <p>【積極的支援】 メタボリックシンドロームのリスクが高い人に、「初回の面接による支援」、「3ヶ月以上の継続的な支援」、「6ヶ月後の評価」を行います。初回面接のあと3～6ヶ月の継続的な支援を行うことにより、内臓脂肪の減量をめざします。</p>
<p>レセプト</p>	<p>レセプト（診療報酬明細書）は、医療費の請求明細のことで、保険医療機関・保険薬局が保険者に医療費を請求する際に使用するものです。</p>
<p>国保データベースシステム（KDB）</p>	<p>国民健康保険中央会が開発したデータ分析システムのことです。特定健診結果やレセプト、介護保険などに係る情報を利活用し、統計情報等を保険者向けに情報提供し、保険者の効率的かつ効果的な保健事業の実施をサポートすることを目的として構築されました。</p>
<p>高齢化</p>	<p>人口に占める高齢者の割合が年々高まっていくことです。</p>
<p>健康寿命</p>	<p>健康寿命とは、「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間」と定義づけられています。健康寿命の指標としては複数の考え方がありますが、国と都道府県は「日常生活に制限のない期間の平均」を指標としています。</p>

国保被保険者	国保は、国民皆保険ということで実施されている制度で、職場の健康保険（健康保険組合や共済組合など）に加入している人や、生活保護を受けている人以外は、職業や年齢に関係なく皆さんが国保に加入し、被保険者となります。
1人当たり医療費	ある特定の集団における医療費の水準を考える場合、代表的な指標の1つです。1人当たり医療費は次式によって求められます。 (加入者1人当たり医療費) = (医療費総額) ÷ (加入者数)
(医療)受診率	一定期間内に医療機関にかかった人の割合を表す指標です。国民健康保険の加入者数と該当疾患の患者数で割る事で算出されます。
ロコモティブシンドローム	骨や関節、筋肉、神経など「運動器」の衰えにより「立つ」「歩く」といった動作が困難になり、要介護状態になっていたり、要介護になる危険性の高い状態をいいます。
循環器系の疾患	高血圧性疾患、虚血性心疾患、脳血管疾患、動脈、細動脈及び毛細血管の疾患等をいいます。
(悪性)新生物	消化器、呼吸器、乳房、腎尿路、甲状腺の悪性新生物、上皮内新生物、良性新生物、等をいいます。
虚血性心疾患	狭心症、心筋梗塞、等をいいます。
糖尿病性腎症	糖尿病性合併症のうち、腎臓のろ過機能が低下している状態を指します。
生活習慣病	不適切な食生活、運動不足、喫煙など毎日の良くない生活習慣の積みかさねによって引き起こされる病気の総称です。日本人の約3分の2近くが生活習慣病によって死亡しているとされています。
高血圧症	正常より高い血圧を持続している状態のことをいいます。
糖尿病	インスリンというホルモンの作用が低下することで、血液中の血糖が過剰に増加する病気のことをいいます。
脂質異常症	血液の脂質（コレステロールや中性脂肪）が必要量より高すぎたり低すぎたりする状態のことをいいます。

有所見	健診結果の数値が基準値より外れている状態のことをいいます。
BMI	体重と身長の関係から算出される、肥満度を表す体格指数のことです。 BMI指数＝体重 (kg) ÷ (身長 (m) × 身長 (m))
収縮期血圧	血液が心臓から全身へ送り出される時の血圧のことです。「上」「最大血圧」とも呼ばれます。
拡張期血圧	血液が全身から心臓へもどる時の血圧のことです。「下」「最低血圧」とも呼ばれます。
HbA1c	血液を採取して、糖尿病の危険度を調べます。糖代謝の指標となります。 HbA1c は、過去約 1 ヶ月間の血糖値の平均を反映しています。この値が高いと、高血糖の状態が長く続いていたことを表し、糖尿病の診断に使われます。
LDLコレステロール	血液中に含まれる脂質の量から、動脈硬化の危険度を調べます。脂質代謝の指標となります。 LDLコレステロールは、増加すると血管壁に蓄積し、動脈硬化を引き起こす原因となるため、「悪玉コレステロール」と言われています。
HDLコレステロール	HDLコレステロールは、血管壁に蓄積したLDLコレステロールを回収し、動脈硬化を防ぐ働きをするため、「善玉コレステロール」と言われています。
中性脂肪	体内ではエネルギー源として使われていて、余りは脂肪となって体内に貯蓄される物質のことです。
ALT (GPT)	血液を採取して、肝臓の機能を調べます。肝機能の指標となります。 ALT は、とくに肝細胞の異変に反応するので、肝臓・胆道系の病気の診断に有効な検査です。
メタボリックシンドローム (内臓脂肪症候群)	お腹のまわりの内臓に脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満に加え、高血圧、高血糖、脂質異常の危険因子を 2 つ以上もった状態をメタボリックシンドロームといいます。 重なる危険因子の数が多ければ多いほど、命にかかわる心臓病や脳卒中を発症する危険性が高ま

	ります。
慢性腎臓病（CKD）	腎臓の働き（GFR）が健康な人の60%以下に低下する（GFRが60ml/分/1.73㎡未満）か、あるいは蛋白尿が出るといった腎臓の異常が続く状態のことをいいます。
eGFR	血清クレアチニン値、年齢、性別から推算するもので、腎臓の機能を表す値のことです。
尿蛋白	尿の中に含まれている蛋白の総称のことです。腎臓や尿管などの障害の有無を調べるために用いられています。
血清クレアチニン	血液中に蓄積されたクレアチニンのこと。クレアチニンはタンパク質が筋肉で分解されてできる老廃物で、通常であれば腎臓でろ過されて尿と一緒に排泄されるが、腎臓の働きが低下すると排泄される量が減少するため血液中に蓄積される。腎臓の障害の有無や働き（機能）をみるための検査項目の1つです。
ジェネリック医薬品	これまで有効性や安全性が実証されてきた新薬と同等と認められた低価格なお薬のことで、新薬の特許が切れてから別会社で発売されています。
重複受診	ある病気で、同時に複数の医療機関にかかることをいいます。
頻回受診	同一医療機関に頻回受診していることをいいます。
アウトプット	目的・目標を達成するため、行われる事業の結果に対する評価を行うことをいいます。
アウトカム	事業の目的・目標の達成度、また、成果の数値目標に対する評価のことをいいます。